

は乾にあたりて、天一神の方なり、餘の惡日は暫おきぬ、天一神の方にむきて、是非弓ひかぬ事也。山城守も四十三とやらむ申さば、土性の酉にて、御同性に參られ候間、彼がためにも悪くは候へども、敵にとりかけられては、惡日かへつて利をうる物なり、其上六日より土用に入ば、土王木囚して、王相御身に當ては以の外わろし、冬の節に入ては、木相土囚にして、相剋相生思ふやう成べし、いかに覺しめすとも、土用の間を御まち候べし、總じて道虛、往亡、歸亡、伐日、六蛇、七鳥、八龍、九虎、十惡日、此は万に凶なり、又大禍、滅門、狼藉、沒日は四ヶの惡日、四不出日、五墓、十死、赤口日、此等は事によるべきかなれども、多分は好からざる日也、指神斗賀神日塞、これ又きらふべき方なり、明日の御合戦は、大きに然るべからずと、鳴つ口説ついさまれども、目の前なる敵をさしおいて、吉日惡日とて師せざらんは、近比のくせ事、短慮未練の正體なし、教訓に拘らず、今迄もあればこそ有しに、往亡日といひ、十惡日といひ、天一神の方といひ、取集めたる惡災日□日の九月六日に、合戦を定めける事こそ、返々も淺猿けれ、

〔運歩色葉集多〕大敗日甲辰、乙巳、庚辰、辛巳、壬申、丙申、癸亥、丁亥、戊戌、己丑、大凶日也。

〔多聞院日記〕永正三年八月廿四日、筒井出頭、去十六日十惡、大敗日也、向後合戦ニ可忌事也。

〔籠籠内傳二〕八專之事

壬子日入癸亥日迄十二日也

八專之間日之事

丑辰戌午之四日也

〔塙囊抄九〕八專日トハ如何ナル日ゾ、三寶ニ忌因縁并十二日アルヲ八專ト云事、旁難心得者也、八專日トテ、三寶ニ忌日八箇日也、但壬子ヨリ癸亥ニ至間、總數即十二日ト云歟、所謂壬子日炎魔